

平成26年度豊かなむらづくり顕彰事業の実施概要

本顕彰事業は、集落等におけるむらづくり活動や農業生産活動に顕著な業績を収めている団体等を表彰するとともに、その活動内容を広く紹介することにより、農業・農村の発展に寄与することを目的に、関係機関の御支援をいただきながら昭和56年より実施しており、本年度で33回目を迎えました。

これまで「むらづくり部門」で159団体、「農業生産部門」で79団体の合わせて238団体が、農山村における地域づくりの模範的な団体として受賞されています。

内 容	時 期
事業募集	平成26年8月19日（火）
予備審査会	平成26年10月29日（水）13：30～15：00 ところ：杉妻会館3階 百合A
現地調査	平成26年11月6日（火）～12月1日（月） うち6日間
本審査会	平成27年1月22日（木）13：30～15：00 ところ：総務委員会室
表彰式	平成27年3月26日（木）13：30～14：40 ところ：ホテルサンルートプラザ福島

平成 26 年度豊かなむらづくり顕彰事業 審査講評

本年度は、4市1町1村から「むらづくり部門」に3団体、「農業生産部門」に3団体の合わせて6団体の御推薦をいただきました。

本年度の推薦団体は、「エネルギーの地産地消を目指した住民と行政との協働によるむらづくり」、「歴史ある伝統工芸竹細工と手打ち蕎麦文化の伝承」、「地域に誇りを持ち独自の創意工夫を積み重ねたむらづくり活動」、「地域の拠点として安全安心そして新鮮な産直品をお客様へ提供」、「新しい園芸農業のモデルとして持続的な地域農業の展開」、「地域の貴重なブランド産品を絶やさぬ新たな挑戦」など、地域の特長を生かし、創意工夫を重ねながら、先進的、かつ、個性的なむらづくりや農業生産活動が実践されています。

本県農業を取り巻く状況は依然厳しい中、農山漁村に受け継がれた豊かな資源を活用して、地域の潜在的な活力を引き出し、地域の絆を推進力として大きな成果を挙げているその姿は、本県農業・農村の再生に大きな弾みとなるものであります。

審査会では、これらの推薦団体は今後も一層の発展が期待され、他地域の模範であると高く評価できることから、平成26年度豊かなむらづくり顕彰事業の優秀団体として6団体を決定いたしました。

なお、下郷町の「芦ノ原地域おこし推進協議会」は、農業生産基盤の維持や農村風景の景観保全などを目的に、地域全体で支え合う集落営農を形成し、住みよい農村づくりを実践しています。国道289号の開通を転機に、地域活性化に関する住民アンケートや各種会議を実施して、住民が寄せたアイデア等をもとに、様々な地域づくりに挑戦し、棚田オーナーとの交流など、人的ネットワークは地域を超えた広がりを見せております。また、村の歴史や伝統行事のほか、棚田などの地域資源を次世代に着実に継承する活動や鳥獣害防止のための緩衝帯整備を行うなど、住民が地域の課題を共有し、一丸となって課題解決に取り組み、活気ある地域づくりに大いに寄与していることから、平成27年度「豊かなむらづくり全国表彰事業」に本県代表として推薦することといたしました。

各受賞団体の皆様には、今後とも豊かで活力あふれるそれぞれの地域を次世代に繋げていくためにも、積極的にむらづくり活動に取り組み、本県農業と農村の振興に一層御貢献いただきますよう期待いたします。

(審査長 福島県農林水産部長 畠利行)

平成26年度豊かなむらづくり顕彰事業の受賞団体の概要

【 むらづくり部門 】

◆EIMY湯本地域協議会（天栄村）

キャッチフレーズ：「まわそう風のちからで 土のちからで」



棚田の再生活動（田植え体験）

天栄村が策定した地域再生計画を推進するための協働団体として、平成16年に当協議会の前身組織が発足、地域のヒト・モノ・カネがうまく結びつく仕組みづくりの実現を目標に、地域の宝ものである地域資源を数多く掘り起こすとともに、都市との交流事業に取り組んできました。

「EIMY（Energy In My Yard）」とはエネルギーの地産地消を目指すもので、ヒトのちからも豊かなふるさとづくりの大切なエネルギーのひとつと考え、風（よそ者）と土（地域住民）のちからを旨く組み合わせることを念頭に、地域の活性化に取り組んでいます。

棚田景観の再生やホテルとの共生を図ったホテル農法米の栽培、交流古民家「智恵子邸」の再生、地中熱を利用した農業ハウスなど、天栄村との協働による取り組みは地域農業の活性化や魅力あるむらづくりに大きく貢献し、交流人口の拡大や地域定住者の増加にも結びついています。

◆おぐにの郷（喜多方市）

キャッチフレーズ：「根曲り竹と蕎麦が楽しい みどりの風吹く美しいおぐにの郷」



おぐに交流の郷に勢揃いした会員の皆さん

歴史ある雄国の地域資源である根曲り竹の竹細工や手打ちそばの食文化を伝承し、地域の活性化を図りたいとの思いから、地区住民の賛同を得て「おぐにの郷」が設立されました。

竹細工部会では、定例イベントとして毎月定期的に会員が講師となり講習会を開催し、地域特有の資源の活用と文化的遺産の伝承を行っています。また、そば部会では、毎月2日間そば打ち体験と食そばの日をもうけ、地域で栽培された「会津のかおり」のそば粉を使用し、地産地消を推進するとともに、小学校等でのそば打ち体験や食そばイベントへの積極的な参加など、食育や都市との交流により、「おぐにの手打ち蕎麦」の食文化を後生に伝えていくために主体的に活動しており、他地区への波及効果を含め、地域の活性化に大きく貢献しています。

◆芦ノ原地域おこし推進協議会（下郷町）

キャッチフレーズ：「～危機感を原動力に～ やる気・元気・活気のむらづくり」



田植え後の棚田オーナーと芦ノ原区民

芦ノ原地域おこし推進協議会では、生産基盤や地域資源を活用しながら、住民が一丸となったむらづくり活動を展開してきました。

営農面では農作業受託組合と連携した参画しやすい集落営農を形づくり、耕作放棄地の発生防止に貢献しております。さらには、住民の意向を踏まえた芦ノ原直売所「はいとー」の設置、都市住民を対象とした農業体験を提供する棚田オーナー制度、景観形成も含めた環境整備や鳥獣害対策、伝統行事の継承などに取り組み、住民の地域への愛着心を大切にしながら地域の活性化につなげています。

当協議会の取り組みは、地域で生活する住民が地域を誇りに思えるような、次世代へ着実に受け継がれる効果的なむらづくり活動となっており、今後もさらなる発展が期待されています。

【 農業生産部門 】

◆東産直の会企業組合（白河市）

キャッチフレーズ：「お客様の心を胸に、新鮮な産直品を提供！」



東産直の会企業組合の皆さん

白河市東地区では、地場産品を積極的にPRするために農業者と商店主が連携し、「東産直の会企業組合」を発足させました。

常に、地元の旬の農産物を取り揃えていることに加え、6次産業化への取組も積極的に行うことで、年間の売上額は会員平均100万円を超え、会員の所得向上や担い手の経営安定に大きく貢献しています。安全安心な農産物の生産販売を心がけるとともに、出張販売や県内外のイベントにも積極的に参加し、地域の地場産品の知名度向上を図り、地域間交流を活発に行っています。

また、学校給食への食材の供給など、組合として地産地消と食農教育の推進にも積極的に取り組み、地域農業の模範的存在となっています。

◆宮袋いちご研究会（会津若松市）

キャッチフレーズ：「雪国会津の先導的なイチゴ栽培の取り組み」



首都圏で販売促進活動中の宮袋いちご研究会の皆さん

冬期間の農業収入の確保に向けて、昭和37年からイチゴの試験栽培が開始されました。本県オリジナル品種を始め、様々な品種に組み込み、地域の気象条件等に適合した品種を選定し、食味に優れた高品質なイチゴ生産を行っています。

基本理念に掲げる地産地消の推進を始め、消費者との交流活動や6次産業化への取り組みも積極的に行っており、地域の活性化にもつながっています。

また、環境にやさしい農業を実践し、地域農業者の模範となるとともに、地域農業の将来を担う中心的経営体として人・農地プランに位置づけられ、新しい施設園芸のモデルとして地域には欠かせない存在であるとともに、地域農業の発展に大きく寄与しています。

◆いわき市農業協同組合梨部会（いわき市）

キャッチフレーズ：「伝統を絶やさぬための挑戦、JAいわき市梨部会」



梨品種検討会

平成5年、これまで地区ごとに生産出荷を行っていた生産組合が合併し、JAいわき市梨部会が設立されました。地域の貴重なブランド産品である「サンシャインいわき梨」を次世代につなげようと、常に品質向上に努めながら産地の維持・拡大を図っています。

部会員は全員がエコファーマーに認定され、環境にやさしい栽培に率先して取り組み、また、高齢化や後継者不足による担い手減少の問題を解決するため、部会内に「梨栽培研究会」を設立して他産業の仕事を持つ後継者や働く女性の技術向上に大きく寄与しています。

さらには、「サンシャインいわき梨」の知名度向上と消費拡大を目指し、6次産業化や食農教育など、地域の活性化に寄与する活動に積極的に取り組み、他の模範となっています。